

おんごん

オークン (ありがとう)

NPO 法人カンボジアの子供の人権を考える会 会報

第 24号 2018年 7月24日 発行

発行者 : The SCCCR日本事務所

〒270-1602 千葉県印西市松虫 516 いんば学舎内

Tel.0476-98-2486 e-mail: t.kikuchi0127@gmail.com



2018.4.20

7月も10日を過ぎるとなると雨季の始まりが雨季本番へ季節が移ったと言えるでしょうか。日本の皆さんは「雨季」と言う日本の梅雨の気候を思い起こされると思います。梅雨を好意的に感じる日本人は少ないのでは・・・と思います。毎日の天気予報にしても、雨があたかも悪いものとして感じられる言い方で予報を伝えますから、知らず知らずの内に好ましからざるものになってしまうのでしょうか。私は30年間、千葉で障害者福祉施設「いんば学舎」で農作業を続けていますので、春夏秋冬とその移り変わり、特に日差し、雲、雨の降り、風の様子・・・など、季節に関わる一つ一つに詩を感じるのです。ところがカンボジア・雨季の雨

ときたら・・・。中間の無い国カンボジアらしいと言えばそれらしい雨で。今時は午後3時から6時の間に降り。それも1時間以内。パラパラと降り始め、直ぐにドドドッと来て、運が良ければ稲妻と雷鳴が加わり30分ほど続いて、次第に降り弱まりこの日の饗宴は終了です。クメール語の分からない僕には、この雨を詩にすることはできず。ナレットさんなら詩を口ずさむかも・・・。とにかく多芸で博識ですからね。こんな雨季の7月の中で暮らしています。

子供達は皆元気に生活しています。7月1日に行われた日本語能力試験で、成田日本語学校入学にどうしても必要な「N5」をチェム(高2)・エンジー(高1)2名が受験しました。「どうだった？」には、「できました。」とのこと。「できました」ほど怪しいものはないけれど・・・。エンジーがパスしたらそれは新記録、今まで高1でパスした子はいませんのでね。「N4」はパニーとキムリンが受験しました。キムリンは合格するでしょう。前回12月の試験でのN5合格点が160点満点で140点取っていますからね。今回N4に合格すれば・・・、N4を携えて日本へ赴くのもキムリンが初めてとなります。

努力に対して良い結果が出ることは嬉しいのですが、私の悩みと言うか不安というか・・・、それは間もなく始まる3ヶ月間に及ぶ学校年度替りの休みです。とにかく何もないですからねえ、小中学生のための休みプランは・・・。そんなこともあり、7月から小学生に個別で勉強を高校生・中学生が教えることを改めて始めました。私は、アパートで高校生7名と生活していますので、直接の勉強指導はできませんが、生活指導は我流でまあまあ出来ているかな・・・の印象を受けています。手前味噌ですが。私の行いの進めの一つに、「他の人のために働きなさい。」があります。共働から協調の気持ちが膨らみますように。

カンボジアは、7月29日が5年ごとの総選挙です。投票は各人の田舎で行うため28・29・30日は休日です。アパートの高校生でマタイが選挙権を持っています。彼は田舎に行って投票してきますとのこと。理由は、「行って投票しないと、地区の係りの人に迷惑がかかるから・・・。」とのこと。政治的邪魔者は国外に追放し、国民は暴力で脅し終えたので、結果はフンセン政権与党「人民党」が圧勝するでしょう。もうあと10日で投票だというのに、私がうろつくプノンペンの中に選挙キャンペーンを感じるものは全くありません。ええ、間もなく投票なの・・・。きっと静かに選挙は行われ、真っ先に中国が結果を承認し選挙は終了となるでしょう。

本号では、「皆さん、9月15日・チャリティーコンサートにぜひお出でください。」のお誘いと、「希望の家」訪問者(松本さん、藤本さん)の手記を中心にお届けします。

(2018.7.20 事務局・菊地)



Cambodia Phnom Penh
「Home of Hope Center」



孤児院「希望の家」支援

高木早苗チャリティ

ピアノコンサート

Vol. 11

日時 2018年 9月15日 (土曜日)

14:00~15:30

会場 いんば学舎・草深 ホール

住所 印西市草深字佈録 484-3 *駐車場あり

電話 0476-48-6411

入場料 大人:1500円 中学生以下:500円

出演 高木 早苗 (ピアノ・コンサート主宰者)

~~~当日のながれ~~~

■ 前半(45分)

ピアノコンサート

バッハ=バウアー:プレリュード、アリアと変奏曲

バッハ=コルトー:アリオソ

バッハ=ベトリ:羊安らかに草を食む

他

■ 休憩(15分)

\*コーヒーチャリティ

\*いんば学舎のパンなどの販売

\*いんば学舎の紹介

■ 後半(30分)

希望の家からの報告と挨拶

フノンペンから

(動画とお話で) 歌と踊り 子どもの紹介 高校生の生活

留学生から

まどめの挨拶とまどめの演奏



クメールダンスも練習する  
ナムラン (幼)、スライロア (妹)



いんば学舎職員と高校生たち



駒澤大学経済学部高ゼミの皆



問合せ コンサート事務局 e-mail:saabsam1201@yahoo.ne.jp (件名は「希望の家コンサート」とお書きください)  
「カンボジアの子供の人権を考える会」事務局(菊地) e-mail:t.kikuchi0127@gmail.com 0476-98-2486

早苗さん、今年もコンサートを開いてくれてありがとうございます。毎年、毎年、ありがたみが重くなっていきます。そうです、ありがたみが増すという、それです。既にお伝えしたのですが、今回で11回目の早苗さんのチャリティコンサート。主宰する早苗さんの歴史は進み、健康にも変化があり・・・、そんな中で毎年一人でコンサートの開催を決め、内容を考える。それに対して私たちが開催に協力する者、チケットを購入し

てくださる人々、当日会場準備と運営に協力してくる人々。おしてその先に希望の家に関わる23名の子どもたちと各々の未来があります。ただかか23名、しかし顔の見える23名は重いです。希望の存在でもあります。この子どもたちの存在と希望が見える早苗さんは、11回目のコンサートを開いてくれるですね、きっと。今年の後半・希望の家紹介に30分も時間をいただき

ました。日本の歌一曲とカンボジアの歌一曲を歌います。女子4名が歌に合わせてクメールダンスを踊ります。キムラン、スライロア姉妹も踊ります。MCisterに頼まれ受け入れた二人。母は2年前にガンで亡くなり・・・クメールダンスを踊る姉は笑顔に溢れ、最年少の妹は笑顔する余裕はなく動かす手・指を必死に見て・・・。又それが可愛い。こんな二人のためにも、皆さん、コンサートにおいでください。

カンボジア フノンペン  
Cambodia Phnom Penh



クメールダンス:スライロア (小4)

孤児院「希望の家」 支援  
Home of Hope Center

チャリティコンサート Vol.11

高木早苗チャリティピアノコンサート  
(鑑賞券)

＜大人・1500円 中学生以下・500円＞

日時:2018.9.15(土) 14:00 場所:いんば学舎・草深ホール  
主宰:高木 早苗 協力:NPO 法人カンボジアの子供の人権を考える会

## カンボジアの9日間

いんば学舎職員 藤本郁奈

4月19日～4月27日までの9日間、私は初めてカンボジアという国を訪れた。以前から、菊地さんや先輩の方々からいろいろな話を聞いて、「いつかは自分も行ってみたいなあ～」なんてただ漠然と思っていた。3月に、菊地さんと夕食をご一緒させていただいたときに、「カンボジアに来なさい」と声をかけていただき、私はあまり本気だとは思わず、その場の勢いで「ぜひ！」なんて返事したら、次お会いしたときには日にちや飛行機の話にまで進んでいて、1か月後にはもうカンボジアにいるという事実私に1番驚いた。まさかこんなに早く行くことになるとは思ってもみなかった。

カンボジアという国は、自分にとって本当に未知の世界で、どんな国なのか、何があるのか、ほとんど何も知らない状態だった。私は、カンボジアでのいろいろなことを想像し、期待と不安を抱きながらカンボジアへ飛び立った。

### ・希望の家

希望の家の子たちは、はじめ仲良くなれるだろうかとても心配だった。希望の家に着くと、グラウンド的な場所にバレーボールコートがあり、子供たちはよく、バレーボールをして遊んでいるという。

希望の家のある地区で緑の木々と広場があるのはここだけです。藤本・松本さんは学生時代はバレーボールの選手。まったく、コートでうちとけ、そのあとも親しむ瞬間。



私も松本さんもバレー経験者ということで、まずはじめに一緒にバレーボールをした。やはりスポーツの力はすごい。名前も顔もまだよく知らない者同士なのに、そう感じさせないほど、1つのボールを必死に繋いで、点が入ったら一緒に喜んで、ずっと笑顔が溢れていた。私自身もとても楽しく、子供たち

とも打ち解けることができた気がした。その後も半日で教えきれないほどのゲームを日が暮れるまで一



土の上を裸足で走る年齢の異なる子どもたち。人々が笑い合っていた遊びの姿です。

緒に遊んだ。皆と一緒に裸足で遊んでみると、なんだか気分が開放的になり、時間を忘れ、自分も子供のころに戻ったかのようにとても楽しい時間を過ごすことができた。菊地さんも大縄跳びに参加し、菊地さんが跳ぶと子供たちは大盛り上がり。休憩しながら端で見ていた私は、パワフルな方だなと思いながら、笑顔で溢れているその光景に、「とても素敵だな～」と写真を撮らずにはいられなかった。カンボジアに滞在している間、希望の家の子たちとは観光地巡りや海、バーベキューなどたくさんの時間をともに過ごした。私にとって、希望の家の子たちと過ごしている時がカンボジアで1番楽しい時間だったかもしれない。



松本へ囃子・藤本さんのアンコール観光日本語通訳役で日本語勉強中のエンジ、チエム。自分の初アンコール訪問と盛り上げたクリスナー、チエム。ここは最高の撮影位置ですなあ。

### ・MCBrothersでの出来事

MCBrothersは、障害児やエイズを患っている方が入所している施設、というのが正しい説明かはわからないが、そのような福祉的な施設である。そこでは、洗濯や掃除、着替え補助や食事補助、そして施設周辺のゴミ拾いなどを中心にボランティア活動を行った。ブラザーのところで私は、いんば学舎での生活を改めて見直さなければいけないと思った出来事があった。

ブラザーのところには、きっと来客が好きなのであろう、すぐに寄ってきてくれるシモンとチャイト

いう二人の男の子がいる。シモンは、自分で歌を歌って踊って、私たちにも「一緒に踊れよ」といった雰囲気です。少し挑発的に誘ってくるやんちゃな男の子。うんちをしてもなかなかオムツを換えたがらず、ズボンのお尻のところはいつも茶色い、それが彼のトレードマークのような、お茶目な男の子。そしてチャイは、うんちをするとなぜかいつも私のところへ来て、困ったような顔をする。なんだかんだ一緒にシャワーへ行き、身体を洗って拭いて着替えをして・・・。そんなかまってちゃんな甘えん坊な男の子。うんちの話で2人を紹介してしまっただけなのに、2人ともとても可愛い男の子である。

右から、田中ジョー、松本ナレット、田中ヘルマン、藤本。田中ジョーは遠路の客に、庭で採れたマンゴーをお土産にくれました。



その日は、「せっかく来たのだから、何か形に残るボランティアを」ということで、私はシモンと一緒にゴミ拾いをしていました。菊地さんと松本さんも違う子とゴミ拾いをしていたのか、チャイはひとり余ってしまっていた。きっとチャイは、誰かと一緒にゴミ拾いをしたかったのだろう。「代わってくれ」とも言うように、チャイはシモンにたくさんちよっかいをふっかけてきた。叩いたり蹴ったり、「暴力は良くないな〜」と思いつつ私はシモンを守っていた。近くにいるとすぐにでも喧嘩が始まってしまうような雰囲気だったので、二人の距離を上手く保ちつつ、なんとかゴミ拾いは終わった。

MCBROTHERSでの食生活。サハ君は3名を介助する全介助男子です。生活できる場所は他にない。サハ君は3名を介助する全介助男子です。生活できる場所は他にない。サハ君は3名を介助する全介助男子です。生活できる場所は他にない。



その後、施設で休憩しながらまったり過ごしていると、今度はシモンがチャイにちよっかいをふっかけていた。私はてっきり、さっきの仕返しをしたい

のだと勝手に思ってしまった。「あれだけやられたら、そりゃ仕返しもしたくなるよな」と思いつつ、「でもやっぱり、暴力は良くないよな」と、次はチャイを守っていた。シモンは近くにあったモップを持ってきて叩こうとしたり、少しやりすぎなんじゃないかと思うくらい怒っているように見えた。しばらくそのやりとりが続いたあと、ブラザーの一人がシモンの話を聞いたら、シモンのサンダルをチャイが奪い取って履いていたことがわかった。シモンは、サンダルを返してほしかっただけなのだ。もっと最初からシモンの話を聞いてあげていたら、もっと早く解決できたことかもしれないのに、私が勝手に仕返しだと思っただけで済んだ、と反省した。



MCBROTHERSの施設の名前は、Home of Hope。あれ、ここから聞いた名...。私たちが住んでいる家は、2003年から活動しています。左・松本と右・チャイと藤本。

いんば学舎でも、会話や自己表現が上手く出来ない人はたくさんいる。だからこそ、思い込みというのはすごく恐ろしいことだと思う。菊地さんもよく、「謙虚に、謙虚に」とおっしゃっているが、本当にその通りだと思う。慣れてくると、「きっと今は〇〇したいんだな」とか、勝手に決めつけてしまっている部分もあるのかもしれない。もちろん、そういった推測が悪いわけではないが、その推測が間違っていたときに、「もっと考えてあげられていたら」と後悔するだろうと、この出来事を通して深く感じた。これから私にとっての職場の中心になるであろう姫沙羅の花言葉が「謙虚」であるように、常に謙虚に生活していきたいと強く思った。

#### ・カンボジアならではの経験

4月の24日～25日に一泊二日でアンコールワットへ観光に行った。アンコールワットは有名な世界遺産ということもあり、とても楽しみにしていた。見たかった場所はすべて案内していただいて、とても充実した1日だった。そして25日、プノンペンに帰る日に、私の身体に異変が起きた。朝起きた瞬

間からなんだか身体がだるく感じた。カンボジアに来てから予定がたくさん詰まっていたので、きっと疲れているだけだろうと、そんな深くは考えなかった。しかし、朝ごはんを食べに行くと、食べることが大好きなこの私が、まったく食欲がわからない。むしろ、食べ物のおいしさを感じただけで少し吐き気がするほどだった。朝食は結局一口も食べず、昼食も頑張って食べようとトライしてみたが、一口食べただけで気持ちが悪くなったので食べるのをやめた。車で5～6時間揺られながらなんとか昼過ぎに菊地さんのアパートに到着した。体調が悪かったため、その日の午後は休ませてもらうことにした。寝れば治るだろうと思い午後はずっと寝ていたが、なかなか体調は回復しなかった。というよりむしろ悪化していた。起き上がるのが辛いほど手足は痺れており、少し歩いただけで呼吸はハア、ハアと上昇してしまう。冷房はかかっており涼しい部屋にいるはずなのに汗が止まらない。さすがに少し異常なんじゃないかと、体温を測ったところ38.6度あり、急遽病院に行くことになった。夜の22時にも関わらず、ナレットさんは嫌な顔一つせず車を出してくれ、菊地さんは私の症状を英訳した紙を印刷してくれ、松本さんは冷えピタやアイスなど買ってきてくれ、アパートの女の子達3人も病院に連れ添ってくれた。皆の優しさに本当に救われた。

Royal Pnomhenth Hospital  
本さんが世話になった病院で、  
地も交通事故の際、3泊し  
た。旅行保険を持っていないと  
金が高くて、タイの病院によ  
り経営されています。  
何故Royal (王立)なのかはわか



検査の結果、食あたりによる下痢のしすぎで、脱水症状だということがわかった。体液と解熱剤を点

滴してもらおうと、先ほどまで絶不調だった身体がまるで嘘だったかのように回復した。「日本への帰国が延期してしまったらどうしよう」と心配していたが、おかげさまで夜中の2時ごろにはアパートに帰ることができた。私は今まで大きな怪我や病気になったことはなく、めったに風邪もひかない超健康体なので、こんなに身体が辛いのは初めてだった。しかし、これもカンボジアの魅力(?)というか、カンボジアならではの経験なのかもしれない。ある意味一生忘れないような思い出ができた。



アパートの男子たちと。  
左から、ボンロック(高)、ブル  
口(電気技術トレーニングスク  
ル)、チエム(高)、マタイ(高  
2)。  
マタイは写真の時はいつもこの  
怖い顔。何度「笑いな」と言っ  
ても直りません。

今回、初めてカンボジアを訪れたが、ここには書ききれないほどの貴重な経験がたくさんあり、とても有意義な旅をすることができた。そして、菊地さんは本当にすごい人だと思った。そんなことを言ったら「いやあ、なんにもすごいことはないですよ」と否定されてしまいそうだが。菊地さんの周りには、優しい人たちが溢れていて、きっとそれは、菊地さんの人柄が引き寄せているものなのだろうと感じた。他にもたくさん思う節はあったが、あまり言葉では上手く説明できないので、とにかくカンボジアに行って経験してほしいと思う。絶対に、行って良かったと思える場所である。私も、楽しいことも辛いこともあったが、それも含め行ってよかったなと心から思う。

たくさんの方々の支えがあって、こんなに素敵な旅と経験ができ、本当に感謝でいっぱいです。ありがとうございました。

早くも・・・、さらば全日空 (NH/ANA) 便

お世話になりますよ、malaysia airlines 便様

2016年9月、ANA 直行便が遂に飛ぶのかと、就航を喜んだものでした。しかも、往復運賃がご祝儀値段の5万円切り・・・。お金的にも、気持ち的にも就航以後はずっとANAの利用を続けました。日本の会社と言うだけの根拠のない安心感で乗って

きました。そうです、簡単にできる座席指定とオンライン搭乗手続きもとても便利でした。僕の懐では、60000円まではANAで・・・だったのが、代金はジリジリ上昇し。65000円まではと、気持ちの弱い僕は妥協を繰り返してここまでできましたが、遂

